

コミュニケーション

No. **102**

2021.10 月号



Contents

- P2・3 園長あいさつ／こんにちは! あかちゃん／移動動物
計報／飼育動物数／小さな動物たちのミニ展示
- P4・5 【特集1】ありがとう、だいすけ
- P6・7 【特集2】大森山動物園とユキヒョウ
～繁殖に向けて～
- P8・9 飼育レポート／動物病院から
- P10・11 イベントレポート／今後のイベント
- P12 飼育日誌／お客さまの声／かたばた通信

ちようどいいから
住みやすい! 秋田市
LIFE
市民と広げるまちへの誇りと愛着

動物園とSDGs

園長 小松 守

2021年夏、東京オリンピック・パラリンピックの開催に重なり新型コロナウイルス感染症が大流行、熱中症警戒アラートの発令や局地的な豪雨発生なども多発、自然環境の悪化を肌で感じた夏でもありました。動物園はこれまでも環境教育を重要なテーマにしてきましたが、より広範なSDGs(持続可能な開発目標)にシフトし始めています。

「開発」の表現はいかにも人間中心ですが、野生動物や自然環境保護だけに目を向けた考えと二項対立的に捉える必要はありません。生き物と自然、人と社会、それぞれが共に生き続けるためのベースは、多様性豊かな自然以外にはないことを意識し、何ができるか考え、行動することに意義があるのでしょうか。

大森山動物園は、イヌワシやトラなどの希少種の展示を継続することで種の保存や生息環境理解にもつなげてきました。また、「動物と語らう森」をコンセプトに、動物を身近に感じてもらい、時には共に生きた動物の死を伝え、動物も人も同じ「命」を持つ存在であることを意識してもらう行動も続けてきました。

動物園のSDGsは人も動物も共に公平に生きる大切な存在であることを思い、気付く場や機会づくりだろうと思います。普通に行ってきたことを改めて捉えなおし、より明確な意識を持ち、何を伝えるべきか常に考え続けたいものです。

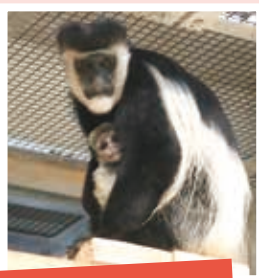


人も動物も共に生きる

こんにちは!

あかちゃん

2021年1月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します

燦(いぶり)／オス
(3月2日)

アビシニアコロブス

1月9日、オスのトリトンとメスのレイアの間に第2子として生まれました。新しいサル舎への引っ越しの直前だったため、引っ越しを延期しました。今では兄の雅香(がっこ)と活発に動き回っています。

この他、ニホンザル、ボリビアリスザル、ワオキツネザル、コモンマーモセットにも赤ちゃんが生まれています。

月と陽
(5月20日)

アメリカビーバー

昨年に引き続き、5月14日に双子が生まれました。泳ぎもすっかりうまくなり、ビーバー一家は6頭の大所帯となりました。

よろしくね!

仲間入りした動物たち



アサヒ／メス

ユキヒョウ

3月19日に東京都の多摩動物公園からブリーディングローンで来園しました。リヒトとの繁殖に取り組めます。詳しくは6～7ページの特集をご覧ください。

紫雲／オス



ニホンイヌワシ

7月30日に東京都の多摩動物公園からやって来ました。たつこのパートナーである信濃の弟に当たりますが、西目の新しいパートナーとなります。他の動物園で繁殖経験があるため、西目をリードしてほしいものです。

飼育動物数

(2021年6月末現在)

哺乳類	50種	336点
鳥類	26種	140点
爬虫類	10種	21点

両生類	2種	4点
魚類	3種	19点
無脊椎	1種	23点

合計
92種 543点

元気でね!

大森山を後にした動物たち



和／メス

アムールトラ

3月4日に和(なごみ)が長野市の茶臼山動物園へ、3月15日に風(ふう)が大阪市の天王寺動物園に、それぞれブリーディングローンで旅立ちました。行った先々で新しいパートナーと繁殖に取り組みます。



風／オス



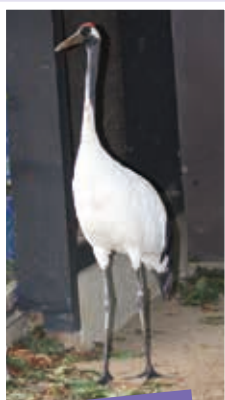
イエミツ／オス

ニホンコウノトリ

6月9日にニホンコウノトリのイエミツが兵庫県にあるコウノトリの郷公園に移動しました。コウノトリの国内飼育下個体群における遺伝的多様性を維持するための移動です。

この他、シロフクロウのチップ(オス)とムース(メス)を須坂市動物園にブリーディングローンで貸し出しています。

忘れないよ... 訃報



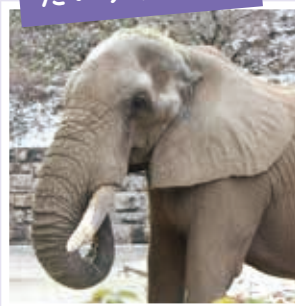
シゲタ／オス

タンチョウ

シゲタはアメリカのウィスコンシン州にある国際ツル財団の生まれで、1984年に恩賜上野動物園から来園しました。当園の動物病院で高病原性鳥インフルエンザが発生した時は動物病院の中にいて感染が危ぶまれましたが、無事に乗り越えました。ここ数年はメスのみっちーとの間で繁殖に取り組みましたが、残念ながら子宝には恵まれませんでした。39歳の大往生でした。

この他、アフリカタテガミヤマアラシ、フンボルトペンギン、スパールバラライチョウ等が亡くなりました。

だいすけ／オス



アフリカゾウ

1990年に秋田市政100周年記念事業で花子とともに来園しただいすけ。長く大森山動物園の顔でした。詳しくは4～5ページの特集をご覧ください。

グラッセ／メス



トナカイ

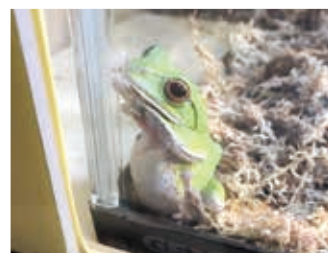
2020年11月に来園したトナカイのグラッセ。5月末に妊娠の後期であることがわかり、初産を無事に乗り切りたいと思っていたところ、6月13日、破水後に子どもが出てこないため、麻酔をかけて帝王切開の手術を行いました。残念ながら、母子ともに助けることができませんでした。

小さな動物たちのミニ展示スタート

サル舎～天空の楽猿～内に、日本の両生・爬虫類のミニ展示コーナーを新たに設置しました。身近だけど意外と知らない、カエルやトカゲなどの不思議な体の特徴やかわいらしい表情などを見ることができます。また、飼育員が展示している水槽内でエサを与えているので、エサを食べる様子も見ることができます。



展示コーナー



モリアオガエル



アフリカゾウのオスの「だいすけ」が、3月5日、秋田での31年の生涯に幕を下ろしました。南アフリカ共和国から一緒にやってきたメスの「花子」とともに、園の拡充・発展の立役者として、大いに貢献したゾウでした。子どもから大人まで多くの市民に愛された彼の生きた証を残すため、関わった飼育員と獣医師がその生涯を振り返ります。



だいすけの生涯

飼育展示担当 山上 昇

私がだいすけと出会ったのは、1992年4月、飼育員1年目でゾウのことは何ひとつ分からない新人の頃でした。当時のだいすけは、推定3歳で小さくてかわいい印象でした。

あれから28年間の長い付き合いとなり、苦楽を共にしてきました。だいすけは、臆病なところもありましたが、優しくおとなしい性格でした。

これまで、腹痛や牙の治療、体のケアを目的とした調教を小さい時から続けてきましたし、一緒に暮らす同い年の花子との相性も良く、誰にでも愛嬌たっぷりに接してくれるゾウでした。

お客さんに人気だったのが、アクリル板越しの小さな穴からエサを与えることができる「ゾウとはなスポット」(エサやり体験)でした。お客さんは、だいすけの迫力と器用にエサをとる鼻の動きにびっくりしながら歓声を上げて楽しんでいました。夏に行われる夜の動物園では、プールに入れられた大きなスイカを鼻ですくい上げ、おいしそうに一気に頬張る姿も人気でした。

そんなだいすけも年齢を重ねるごとに体に衰えが見られるようになり、特に2019年頃からは、体重を支える足のトラブルに悩むようになりました。日々のトレーニングで、爪や足裏を削って歩く時の負担を軽くしたり、患部にシップ剤を塗ったりとケアを行い、それに応えるように、だいすけも必死で頑張り続けました。

2020年10月下旬には、寝室で体調を崩し、ふらついているようで、壁などに体当たりする場面が見られました。食欲も急激に落ちてしまいましたが、だいすけの好物や園内にあるカシワやサクラ、ケヤキなどの枝葉を取ってきて与えたところ、ふらつきながらも一



来園時のだいすけと花子(1990年)



花子と仲良くスキンシップ♪(2011年)



距離が近い！ゾウとはなスポット(2017年)



圧巻のスイカ丸かじり(2014年)



トレーニングで足裏を削る様子(2018年)

生懸命食べてくれました。

また、動物園の近隣の方々のご協力で、笹竹をいただき食べさせたところ、よく食べてくれたので、この姿に飼育員も逆に励まされ、毎日新鮮な笹竹を取りに行きました。

しかし残念ながら、体の回復は一時的で、2021年3月5日未明にはついに倒れてしまい、午前9時28分、だいすけは天国へと旅立ちました。

だいすけの死後、ゾウ舎がとても大きく広く見え、その存在の大きさに改めて気付かされました。

だいすけが私たちに教えてくれたのは、最後まで諦めず生き続けるという強い気持ちと命の大切さでした。今は動物園を支えてくだいだいすけに、感謝とお疲れさまでしたという言葉を送りたいと思います。

どうか、だいすけが大森山動物園で30年暮らしたことを忘れないでください。

そして、今までだいすけを支えていただいた多くの方々に御礼申し上げます。



だいすけの治療

獣医師 小川 裕子

私がだいすけの診療に加わったのは6年前の2015年からです。だいすけは花子と比べ^{せんつう}疝痛(腹痛)になりやすいゾウでした。年中疝痛で苦しんでいることはありませんが、気温の寒暖差が大きい季節の変わり目やエサの干し草が新しくなった時などは要注意でした。症状が現れるとすぐに治療を開始します。動物の治療は「保定9割技術1割」と言われるほど、動きのコントロールが重要で、治療は獣医師とゾウの扱いに慣れた飼育担当者の共同作業で行います。

若い頃のだいすけのカルテを読み返すと、来園時からの右後肢足根関節部(くるぶし部分)が少し内側へ曲がり変形していたこと、折れた右牙を麻酔下で除去していること(牙の一部を資料館に展示中)、前肢手根関節(人間の手首部分)が数回腫れたことなどが記録としてありましたが、カルテからは、元気いっぱいのだいすけの様子が読み取れます。

1993年から続いた右牙の除去と治療は、特に大変だったことが伝わってきます。最初は歯茎からの排膿^{はいのう}があり、診療の結果、牙のヒビが原因でした。歯科医にも協力してもらい2年かけて治療をしました。牙の除去ができなかった場合、炎症が全身にまわり死に至っていたかもしれません。当時の獣医師、歯科医、ゾウ担当みんなの努力がだいすけを救ったともいえます。

私が関わってからのだいすけは、右後肢足根関節部の変形が進行し、体重を支えるために反対側の左後肢への負担

も加わり、2019年10月からの治療は疝痛予防と関節炎の治療が主なものでした。

前号にも記載しましたが、2020年秋から状況が変わってきました。後肢に痛みがあるのか、精神的な不安なのか、だいすけが屋外展示場に出なくなりました。10月下旬の夜、よろけて後傾になり倒れそうになったことがありました。だいすけは体重が約5トンあるので、倒れて寝たきりになると、自らの重さで内臓が圧迫され、循環不全や呼吸不全に陥ります。よろけた時は、後肢を踏ん張り体勢を立て直しましたが、倒れてしまった場合の対策を講じることが急務となりました。倒れてしまったゾウはチェンブロックで吊り上げてあげると、再び立ち上がることがあります。普段から治療の相談をしている仙台市八木山動物公園から手動ウインチを、盛岡市動物公園からチェンブロックを借りることにしました。

だいすけは最後まで治療を頑張ってくれましたが、3月5日にバランスを崩し転倒してしまい、チェンブロックで吊り上げようとしていた矢先、残念ながら死亡してしまいました。

死亡後の剖検の結果、死因は多発性関節炎で立てなくなり転倒し、自らの重さが内臓を圧迫し循環不全を起こしたものでした。だいすけの体は、東京大学総合研究博物館に寄贈されています。将来、博物館に展示されることになった際には、頑張り屋だっただいすけに会いに行きたいと思います。



まんまタイムで果物をペロリ



2018年からのパートナー・リリー(右)と



亡くなる約1か月前のだいすけ



献花台にたくさんのお花をいただきました

大森山動物園とユキヒョウ

～繁殖に向けて～

園長補佐
獣医師

三浦
湯澤

匡哉
菜穂子



リヒト

1 はじめに

大森山動物園では1991年からユキヒョウの飼育を開始しました。一度は展示が途絶えてしまった時期もありましたが、2018年にオスのリヒトが来園し、再びユキヒョウの繁殖に取り組んでいます。今回は、大森山動物園におけるこれまでのユキヒョウ飼育の歩みと今後についてご紹介します。

2 ユキヒョウとは

ユキヒョウは中央アジアの山岳地帯に生息するヒョウの仲間で、普段は単独で生活し、繁殖期の1～3月にオスとメスが出会い、4～6月頃出産します。野生では数を減らしており、IUCN(国際自然保護連合)のレッドリストでは、絶滅の危機が増大しているとされるVU(危急種)に該当します。飼育下では国際血統登録が行われており、生息域外保全が進められています。

3 大森山動物園のユキヒョウ飼育の歴史

大森山動物園では、1991年にメスのライサを名古屋市東山動植物園から、オスのパーチを札幌市円山動物園から、それぞれ借受け、繁殖に取り組みました。

1994年には初めて子どもが生まれ、2～3年おきに計4回出産しました。

その後、2007年にパーチが16歳で、2010年にはライサ

が19歳で亡くなったため、ユキヒョウが大森山動物園からいなくなっていました。

8年間のブランクを経て、再び大森山動物園でユキヒョウの飼育に取り組むチャンスが巡ってきました。2018年3月に旭川市旭山動物園で生まれ育ったリヒトを、円山動物園から借り受けることができたのです。



ライサ(左)とパーチ(2007年)



来園初日のリヒト(2018年)

4 リヒトのパートナーを探して

来園してすぐに2歳になったリヒトのパートナーを探しましたが、繁殖適齢期で独身のメスが当時国内にはいませんでした。そこで、公益社団法人日本動物園水族館協会のユキヒョウ計画管理者に相談し、飼育下個体群の遺伝的多様性を維持するために海外からの導入に挑戦しました。

計画管理者の紹介でオーストラリアの動物園に候補のメスがいることが分かったので、当園の飼育方法などを伝え、粘り強く交渉を続けましたが、残念ながら導入には至りませんでした。

この結果を受け、計画管理者に相談してもう一度国内の個体を探してもらったところ、東京都の多摩動物公園にいるアサヒがリヒトのパートナーとして決まりました。こうして無事に2021年3月19日にアサヒが大森山動物園にやって来了のです。

5 新生活でのアサヒ

アサヒは賢く物分かりがいいので、部屋の移動を覚えるまでにはさほど時間はかかりませんでしたが、飼育員がわざとアサヒを見ないようにしている間にサッと移動するなど、ユキヒョウらしく警戒心の強い性格です。少しずつ大森山動物園での生活にも慣れてきた頃、外展示場にも出るようになりました。アサヒのお気に入りの場所は、展示場中央にあるキャットタワーの最上階です。木の陰となりお客さんからはやや姿が見えづらい場所ですが、アサヒにとっては落ち着く



来園初日のアサヒ(2021年3月19日)



お気に入りの場所でくつろぐアサヒ(2021年8月23日)

場所のようです。

野生のユキヒョウは群れを作らず、縄張りを持って単独で生活する動物なので、現在はアサヒとリヒトは1頭ずつ展示場に出ています。ユキヒョウの展示場は1つしかないのですが、2頭は交代で展示場に出ることになるのですが、マイペースな彼らは閉園時間になって寝室に戻るよう呼びかけてもなかなか帰ってきてくれないこともあります。特に暑さで食欲の落ちる夏は、気まぐれな彼らの外泊が続くことも多く、飼育員は2頭を交代で展示することに苦労しています。

6 繁殖に向けて

ユキヒョウの繁殖期は冬～初春で、この時期にメスは定期的に発情を迎え、鳴き声や匂いで相手を探して交尾を行います。

アサヒとリヒトで繁殖を目指すためには、ポイントが2つあります。まずはアサヒの発情兆候をしっかりと見極め、それに合わせてリヒトと同居させることです。発情したメスは、大きな声で頻繁に鳴いたり、地面にゴロンゴロンと体をこすり付けて匂いをつけたりするなどの行動がみられるようになります。

2つ目は安全な同居です。狩りをするための鋭い爪や牙をもつユキヒョウが、互いに攻撃し合って大怪我をする事態を防ぐため、同居にあたっては、2頭の様子を注意深く観察しながら十分に時間をかけて2頭の距離を近づけていく必要があります。柵越しのお見合いを少しずつ何度も重ねて、互いに相手を認識させ、一緒にしても闘争にならないと判断できれば同居をさせます。

7 最後に

リヒトは5歳とまだ若く、今回が初めての繁殖への挑戦となります。一方のアサヒは10歳と繁殖にはやや高齢になりつつあり、次の繁殖シーズンは残り少ないチャンスであることから、貴重なチャンスを逃さぬよう、慎重に準備を進めていきたいと思っています。



リヒト(左)とアサヒ。2頭の赤ちゃんが見られるよう、見守ってくださいね!



「継承」の大切さ

私はこれまで嘱託職員として大森山動物園で勤務してきましたが、15年目を迎える今年、動物専門員として採用され、新たなスタートを切りました。担当動物は、アシカと、トラやライオンなどの猛獣、ミーアキャット、ワシミミズクです。アシカとは私が動物園に勤めてからの長い付き合いですが、猛獣は今年担当になったばかりです。

猛獣といえば動物園の人気者が多く、担当と聞いた時は驚きと不安がありました。見ている分にはとてもかわいいのですが、担当となると扉一枚の距離で、猛獣の息もかければ、大きな咆哮も腹の底に響いてきます。また、前任の担当者は担当歴14年のエキスパートで、当園の猛獣たちに長生きが多いのは、長年の経験と知識があったからこそだと思います。それを今度は私が引き継いでいくのだと思ったら身が引き締まる思いでした。

アシカは今年から新しい担当者が入り、人材育成中です。アシカのトレーニングは人と動物の信頼関係が非常に大切ですので、新しく入った担当者がアシカと良い関係づくりができるようサポートしています。

動物専門員になった今、動物園にとって知識や技術を継承していくことの大切さを改めて感じています。今後、動物園がもっと発展していけるよう、動物専門員として尽力していきたいと思っています。

飼育展示担当 千葉 可奈子



動物との信頼関係が大切です



これからよろしくね♪

人と動物、人と人をつなぐ

私は大森山動物園で17年間嘱託職員として勤務し、今年から新たに動物専門員として採用されました。今まで数多くの動物飼育に関わり、たくさんの動物の生と死を経験してきました。さまざまな職業がある中で日常的にこんなに命を感じ取れる場所はなかなかないと感じます。

飼育に正解はありません。自分が飼育員として取った行動でその動物が返してくれる行動が変わります。嬉しくて小躍りしてしまう日もあれば、やるせなさから落ち込む日もあります。そんな起伏の激しい日々の中で動物が健康的で生き生きとのんびりした時間を過ごしているのを見ると「ああ、自分のやっていることは間違っていないのかもしれない」と思わせてくれます。

人とのコミュニケーションも同じだと思います。私たちは言葉を交わしますが額面通りではない時もあります。人も動物も、相手のことを思いやり考えて接することが大事だと動物から改めて教えてもらえます。だからこそ、動物専門員として動物の魅力を伝え、命のつながりを感じ、考えてもらえるよう努力したいです。そして、大森山動物園を動物と動物園スタッフのつながりをはじめ、地域住民や来園者、動物園に来られない方など、さまざまな立場の人と動物、人と人のつながりを感じ愛されるそんな癒やしの場所にしていきたいです。

飼育展示担当 堀籠 麻子



アフリカゾウのまんまタイム



フラミンゴヘエサやり

焦らず、ゆっくり関係築く

飼育展示担当 舘岡 幸枝

これまで嘱託職員として12年間勤務してきましたが、今年の4月から動物専門員として採用となりました。そして、初めてチンパンジーを担当することになりました。チンパンジーは知能が高く、高度なコミュニケーション能力を持っているため、接する時にはとても気を遣います。また、私のような新人に対しては、どんな人間なのかと警戒するようです。当園最古参のチンパンジーであるボンタ(オス49歳)は、外展示場から帰る時に、私が扉の開け閉め係をすると素直に入ってくれないことがほとんどです。「新人の言うことなんか聞かないぞ!」と言っているかのようなのです。

そんなボンタですが、最初はほとんど無反応だった朝の挨拶の時に、柵越しに指を出して挨拶を返してくれるなど、少しずつですが距離は縮まっています。今後も先輩の飼育員に学びながら、焦らずゆっくりと関係を築いていきたいと思っています。

また、学校向けに行っている教育プログラムの担当にもなり、動物園の役割の一つである環境教育について、より良いプログラムの構築などに思いを馳せる毎日です。これまで大森山動物園が積み上げてきたものを最大限に生かしつつ、自分の持ち味を生かし教育普及活動に貢献できるよう、全力で取り組んでいきたいと思っています。



チンパンジーのボンタ



小学生向けの飼育体験で

動物病院から

カメの甲羅の裏側

獣医師 川本 朋代

一般の方はあまり見ることはできませんが、カメの標本から甲羅の部分だけを裏返すと、内側にびったりと骨が背中にそって張り付いているのが見えます。この長い骨はカメの背骨です。カメはヤドカリのように甲羅を脱ぐことができません。カメを飼育している人でも「甲羅に背骨が張り付いているのですか!？」と驚く方はとても多いです。カメの甲羅は背骨が外側にでてきて発達してできたものと言われています。



カメの甲羅の標本

動物園では以前飼育していたケヅメリクガメのカメ子の標本の甲羅を見てもらうことが多いです。レプリカではなく、生きていたカメが背負っていたものであることにびっくりされますが、お客さんの中には、「オオハシ舎にいたカメさんだね」と覚えている方もいらっしゃいます。



甲羅の裏側

カメの甲羅の硬さ、重さ、手触り、そして裏側はどうなっているのかは、見て触って初めて分かります。動物園で亡くなった動物はすべて解剖し、どうして死亡したのか死因を調べた後に埋葬しますが、中にはケヅメリクガメの甲羅のように、標本として残す場合があります。動物たちが死ぬことは悲しいことですが、そこで終わるのではなく、彼らが生きた痕跡を残し、もっとその動物のことを知ってもらうために標本を作ります。園内の資料館にはさまざまな動物の標本が収蔵されていますので、来園した際はぜひご覧ください。

イベントレポート

通常開園スタート・サル舎オープン(3月20日)

今シーズンの通常開園がスタート。開園セレモニーでは、穂積市長のほか、ネーミングライツ・パートナーである秋田銀行の新谷頭取にもご出席いただきました。

また、2020年10月に完成した新しいサル舎～天空の楽猿～のオープニングセレモニーや、秋田公立美術大学との連携による「大森山アートプロジェクト」で制作したサルの生態や進化を表現した壁画なども発表しました。

「天空の楽猿」
オープニング
セレモニー



壁画はサル舎
屋内展示場に
設置しています

飼育の日イベント(4月18日)

4月19日の飼育の日に合わせ、普段は実施していないワシミミズクなどのエサやり体験やニシアメリカオコノハヅクの腕乗せ体験などを行いました。

また、飼育員によるキーパーズトークでは、「動物を飼育する上で大切にしていること」「正直大変なこと」「うれしいこと」など、飼育員のここだけの話をテーマに、座談会形式でお話しました。



コノハヅクの腕乗せ体験



キーパーズトーク

どうぶつの園長☆決定戦

ゴールデンウィーク期間中、立候補した12種類の動物たちの中から「どうぶつの園長」を決める「どうぶつの園長☆決定戦」を開催しました。来園者による投票の結果、見事1位に選ばれたのは、ユキヒョウのリヒトで、2位はレッサーパンダのかんた、3位はコツメカワウソのキトラでした。

また、どうぶつの園長就任記念として、立候補した動物たちの紹介のほか、リヒト園長の歩みを振り返るパネル展も開催しました。



園内に掲示した選挙ポスター



パネル展の様子

スダックスの共同栽培(5月11日～7月13日)

今年も地域の学校と協力し飼料作物スダックスの栽培・収穫を行いました。今回は浜田小学校と栗田支援学校の3年生20名が参加し、5月に堆肥の散布と種まき、7月に収穫作業を行いました。

初めは慣れない作業で恐る恐る刈り取っていた児童たちでしたが、時間とともに上手になり、気付けば運搬用の一輪車はいっぱいになっていました。スダックスは、アフリカゾウのリリーにプレゼント。無事に給餌体験を終えると、児童たちは満面の笑みを浮かべていました。



収穫作業



スダックスを
リリーに
プレゼント

第44回 親と子のふれあい写生大会(7月19日～8月8日)

園内での密集を避けるため、今回も画用紙を配布して参加者が自宅で作品を制作しました。提出された336点から、秋田市造形教育研究会による審査で、40点が入賞作品として選出され、市長賞など上位3賞には、新屋ガラス工房に制作いただいたオモリントロフィーを贈呈しました。

市長賞



秋田市立土崎小学校 4年
松田 明日夢 「サル密」

秋田市議会議長賞



秋田市立旭南小学校 1年
古谷 心春 「水中ハンター、カワウソ」

秋田市教育長賞



秋田市立桜小学校 6年
鈴木 怜 「水の中は、気持ちいいなあ」

第47回 サマースクール(7月27日～29日)

参加した小学生29名は、各学年に分かれて獣舎の清掃やエサ作りなど、動物の飼育作業を体験し、体験後は、担当した動物の生態をまとめました。参加した子どもたちからは、「エサやりが楽しかった」「掃除が大変だった」「また動物のお世話をしたい」などの声が聞かれ、充実した体験ができた様子でした。



ペンギンの
展示場を
ピカピカに



キリンへの
エサやり

夜の動物園(8月11日～16日 ※13日を除く)

アムールトラの
カサンドラ



サル舎
「天空の楽猿」

今年も動物たちの体調を考慮して13日をお休みとし、5日間の夜の動物園を開催しました。新型コロナウイルス対策のため動物イベントは開催できませんでしたが、期間を通して約23,000人が来園し、日中とは違う夜の動物園の雰囲気をお楽しみいただきました。

今後のイベント
(予定)

11月28日(日)「さよなら感謝祭」

2022年1月8日(土)～2月27日(日)の土日祝日「雪の動物園」

飼育日誌

1/3	アカカンガル	ソルベ♀ 舌の左先端一部欠損。患部周辺が紫色に変色。抗生剤筋注。
1/4	マントヒヒ	整腸剤投与、便秘の臭気。
1/6	スバルバルライチョウ	大福丸♀ 隔離棟から展示場へ移動。
1/7	ミーアキャット	川原母♀ 産室のわらに血痕のようなものが付着。母親の腹部もすっきりしていることから、子の食害が考えられる。
1/11	アミメキリン	カンタ♂ 血中リンの値が2倍に改善。
	シンリンオオカミ	ジュディー♀ 発情出血確認。
1/21	ホンダタヌキ	ポコ♀ レントゲン撮影により左腿の骨折が判明。
1/24	タンチョウ	シゲタ♂ 食欲廃絶のため強制給餌。
1/31	コモンマーモセット	繁殖制限のための雌雄分離を午前・午後で実施。
2/2	アフリカゾウ	だいすけ♀ 便量低下、下剤内服開始、右後肢排膿、採血。リリー♀ 採血・採糞。
2/6	チンパンジー	コタロウ♂・ルイ♀ 同居。
2/12	アミメキリン	リンリン♀・ケイタ♂ 同居訓練実施。
2/13	ニホンイヌワシ	西目♀から採卵した2卵をたつ子♀へ(たつ子♀の2卵を孵卵器へ)たつ子♀産卵(3卵目)。
2/16	フタコブラクダ	来来♀ 観覧車のきしむ音で落ち着きなし。
	トナカイ	春来♂ 左角落角。
2/17	プレーリードッグ	サン♀ 発情、同居、交尾。ルイ♂ 保定下輸液。
2/23	サンショクキムネオオハシ	体重測定。体重363g
2/28	フクロテナガザル	交尾行動確認。
	ボアコンストリクター	一部脱皮していた。
3/1	ツキノワグマ	本日から給餌開始。
3/2	アビシニアコロボス	新サル舎へ移動。
3/5	ニホンイヌワシ	西目♀ 抱卵不安定。3卵目(2クラッチ1卵目)を擬卵と交換し、孵卵器に入れる。
3/6	アフリカゾウ	♂解剖、リリー♀ ホルモン剤投与1日目。
3/9	ニホンコウノトリ	巢材運び。交尾行動確認。
3/11	サル舎のサル、各種外展示場への馴致訓練。	
3/19	ニホンイヌワシ	性別不明1羽繁殖(西目の2卵目)。3/21死亡を確認。
3/22	プレーリードッグ	タマリア♀ 偽妊娠の可能性。
3/23	トナカイ	ルイ♂・春来♂スペースに、ルドルフ♂を加えた3頭同居開始。
	アムールトラ	カサンドラ♀ トレーニング台に四肢を乗せる。
3/25	ニホンコウノトリ	巣内部確認。卵4個確認。
	アムールトラ	カサンドラ♀ 発情兆候あり。
3/31	トナカイ	ルミ♀ 両角落角。
4/3	ニホンイヌワシ	第1ペア 残りの1卵も破卵。【孵卵器】入卵中の西目卵、初期中止卵と判明。
4/12	ミニブタ	トン平去勢♂。山形県鶴岡市で野生のイノシシで豚熱が発生したため、当面の間展示中止。
4/16	フンボルトペンギン	左赤右白白♂ 削瘦目立つ、動作やや緩慢。強制給餌。夕方、♀とキーパー通路で隔離飼育。

4/28	ケヅメリクガメ	フミヤ♂・ミコ♀ 旧爬虫類舎へ移動、採食良好。
5/2	アフリカタゲミヤマアライ	ハルマキ♂・チョモ♀ 交尾行動確認。
5/4	アムールトラ	カサンドラ♀が令♀に対し威嚇・攻撃行動あり。
	シンリンオオカミ	シン♂ 左前肢、肘関節の内側に直径5cmくらいのしこりを確認。
5/6	アメリカビーバー	子2頭♀と判明、体重測定。チャト5360g、チャル7640g
5/7	アムールトラ	カサンドラ♀と令♀本日から別離管理とする。
5/8	ニホンコウノトリ	第2クラッチの5卵全て擬卵に交換。すべて有精卵と判明。
5/16	ゼニタナゴ	目視にて3匹の稚魚浮出確認。
5/17	アフリカゾウ	リリー♀ 夜間横臥睡眠時間短い。
5/25	アフリカゾウ	リリー♀ 採血3回、ホルモン剤注入、採尿・採糞。
	ホンダタヌキ	ポコ♀ 本日少量だが血液の採取に成功(カルシウムの低値と肝臓機能の低下)
5/31	レッサーパンダ	ユウタ♂ 左後肢腫瘍摘出手術。夜間は病院で管理。
	ワオキツネザル	♀ そ径ヘルニア疑い。離乳後手術予定。
6/7	アビシニアコロボス	午前中外展示場馴致訓練(初回)
6/10	マナヅル	マナオ♂ 6/9に嘴負傷。食欲不振。
6/11	チンパンジー	ルイ♀ ステロイド内服、外展示場勉強ビデオ鑑賞。
6/16	チンパンジー	ルイ♀ 展示場馴致訓練開始。
6/17	キリン	ケイタ♂ メイン展示場放飼訓練(初日)。
6/19	ライオン	ロアー♂ 麻酔下爪切り。
6/20	シンリンオオカミ	ジュディー♀ トレーニング1段階上げる。
6/21	シンリンオオカミ	シン♂ 短時間だが「待て」ができるようになってきている。
6/23	カリフォルニアアシカ	仕切りフェンス目隠し板設置(防音)作業。
6/28	アフリカゾウ	リリー♀ 筋注練習実施。
7/1	アフリカゾウ	新人のリリー♀に対する馴致開始。
7/2	キョン	ノゾム♂ 落角。
7/4	ホオアカトキ	移動(越冬舎→旧ジュバシコウ舎)。
	グリーンイグアナ	交尾の可能性あり。
7/7	キリン	カンタ♂ 元気消失・採食不良に伴う緊急処置実施。
	チンパンジー	ルイ♀ 初潮確認。
7/18	ニホンイヌワシ	風斗♂と西目♀のペア解消。その後、風斗♂と月子♀でペア形成。
7/19	カリフォルニアアシカ	アイラ♀ 18時頃発情兆候確認。例年に比べ弱く18:45同居断念。
7/20	カリフォルニアアシカ	同居・交尾確認。
7/23	シンリンオオカミ	シン♂ 左肩に出血痕。午後反応が悪いため収容。よろつき起床に時間かかる。
7/27	アフリカタゲミヤマアライ	おこげ♂、ヤマアライ舎からウエルカム舎に移動。
7/30	イヌワシ	紫雲♂×西目♀即日同居。

お客さまの声

3/25 新しいサル舎の動物たちを見てとてもワクワクしました！また来ます。

4/28 動物園に来るといつもいろいろな表情が見られて楽しいです。これからも頑張ってもらいたいです。

6/1 30年ぶりくらいに来ました。動物園頑張っていますね。春なので出産シーズンなので赤ちゃん見られたらと期待して来ました。少し満足です。ありがとうございます。

6/2 子どもが小さい頃いつも家族で来ていましたが今日は運動がてら来てみました、とても良かったです。ソルやクジャクがきれいでした。また来たいと思います。

7/6 動物園にはたくさんの職員の方が毎日、動物のお世話など頑張って下さっています。本来ならば自然界で生きている動物に限られたスペースの中で過ごさなくてはならないのですから、精神肉体系からのケアも大変なことだと思います。ごくろう様です。知能のすぐれているチンパンジーが楽しく遊べる工夫もよくお願いします(いつ見てもふてくされたようなつまんなそうな…？表情をしている感じに？見えてしまいます)

7/8 サルのエサやり楽しかった。アソヴェの森も楽しかった。お姉さんの動物解説もわかりやすかった！！また来るよ！！



今年の5月に企画広報担当に異動してきました。まだ異動してから数か月しか経っていませんが、動物たちが見せてくれるいろいろな表情に日々魅了されています。

ふと園内を歩くと、大好きなエサに飛びついておいしそうに食べていたり、ついさっきまで元気に展示場を走り回っていたのに、今度は気持ちよさそうに寝ていたり。また、カメラを向けるとこちらに気付いて視線をくれる瞬間もあったりと、動物たちの行動は不思議でとても魅力的です。

今後は、動物園のさまざまな魅力の一つでも多く伝えられるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします！

(保坂)